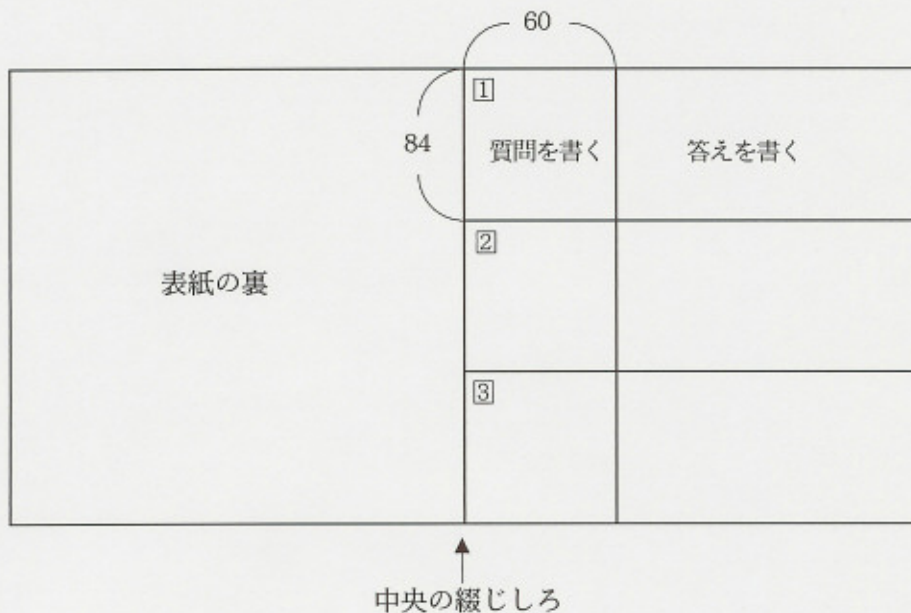


暗記用サブノートの作り方

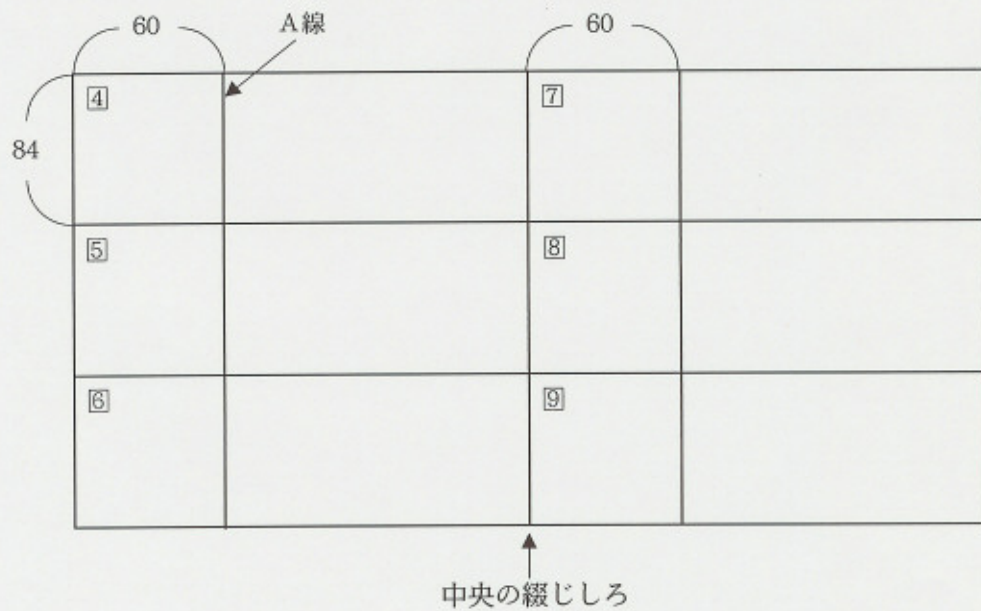
ここでは、「葉袋式英単語暗記法」(研究社刊)で紹介されている「英単語暗記シート」を、他の教科の暗記に応用するための「暗記用サブノート」の作り方を説明します。

① 形式

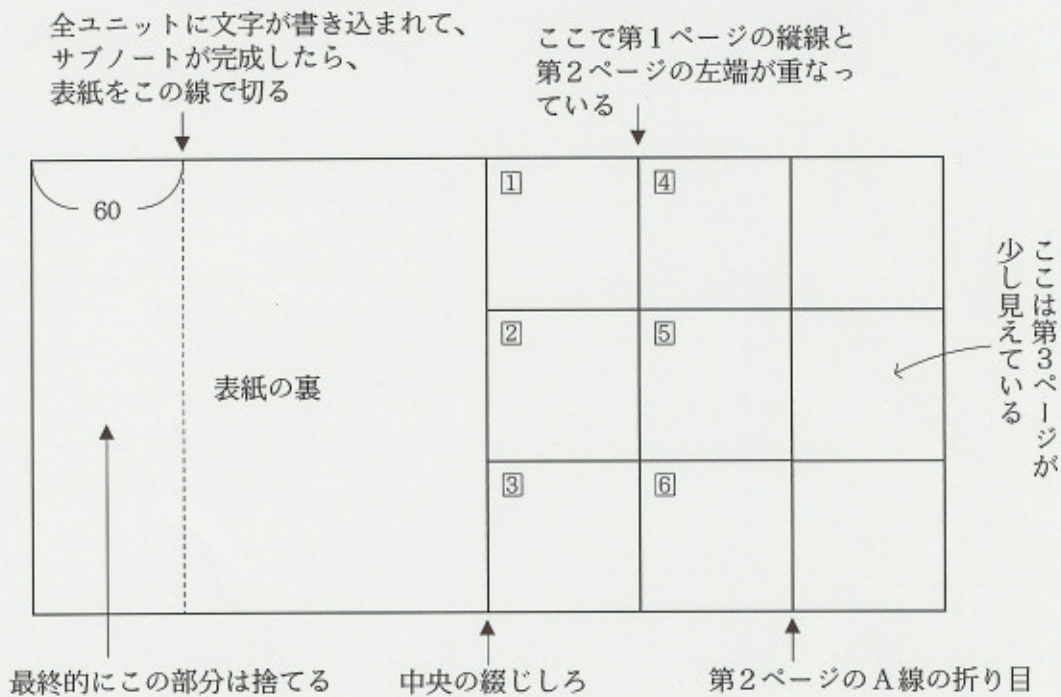
1. 6号のノート(タテ252×ヨコ179)を用意します。6号のノートは正確にはB5判とは大きさが違うのですが、文具店ではB5ノートとして売られているようです。
2. 1ページを横に3列に仕切ります。
上から84mmのところと168mmのところを横線と引くと3等分になります。しかし、実際には、上部と下部に余白があり、中央に30行の罫線が引いてあるのが普通なので、中央の30行を10行ずつ3等分します。
3. 各ページの左から60mmのところを1本タテ線を引きます。
4. このようにしてできた[タテ84mm ヨコ60mm]の枠の左上に通し番号を書きます。すると第1ページは次のようになります。



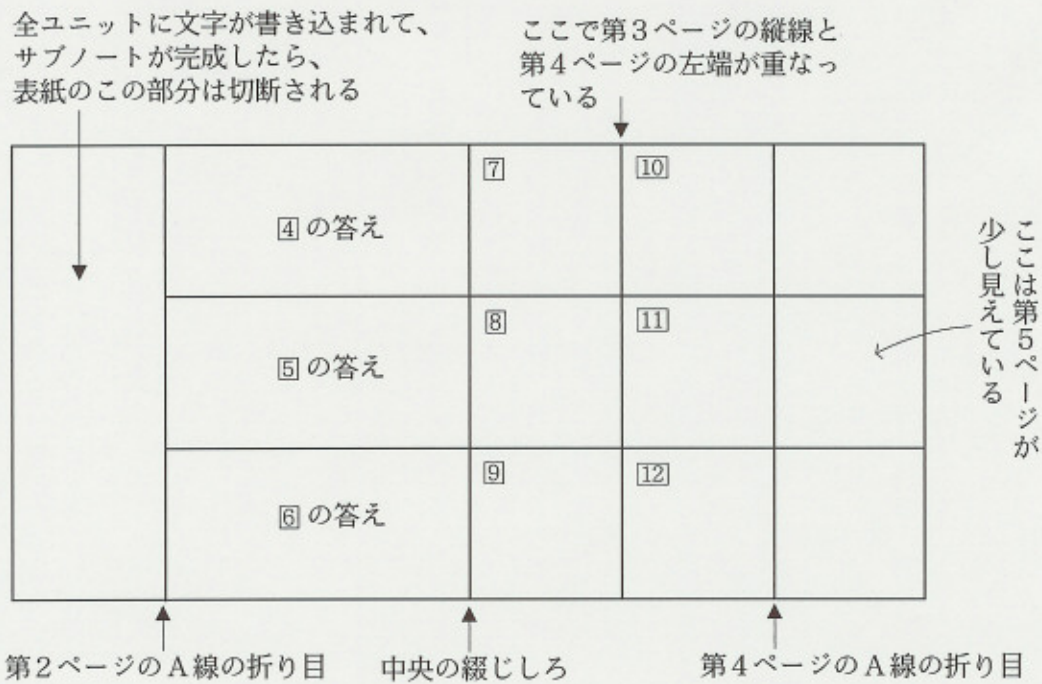
第2ページと第3ページの見開きは次のようになります。



5. 第2ページをタテ線 (= A線) を山にして (=背にして) 折ります。
すると、表紙を開くと次のようになります。



第2ページと第3ページの見開きは次のようになります。



6. このように作ると①②③の質問に対する答は④⑤⑥の紙を持って、A線の折り目を中心に右に開くと、見ることができます。④⑤⑥の質問に対する答は、このページ全体をとじしろを中心に左にめくると、見ることができます。

7. 最初から全てのページをA線で折り曲げると、後で各ユニットに文字を書き込むときに非常にやりにくくなります。したがって、文字を書き込んだら、そのページだけA線で折り曲げるようにして、折ったページが少しずつ増えていくようにしてください。

8. 全ユニットに文字が書き込まれて、サブノートが完成したら、表紙と裏表紙のはみ出ている部分を切断します。すると、横は本来のノートの $\frac{2}{3}$ の長さで、縦は本来のノートと同じ長さの縦長のノートができあがります。

9. 普通の6号のノートは80ページなので、ノート1冊で240ユニットが収まります。1教科につきノート3冊(=720ユニット)を暗記すれば、大学入試であればほぼ合格圏に入ると思います。

10. ノートの大きさは、必ず6号でなければいけない、ということはありません。各自で使いやすいノートを見つけてください。

2 内容

1. 暗記事項を「質問」と「答え」という形式に構成します。構成の仕方は後述します。

2. [タテ84×ヨコ60]の枠(=左上に通し番号が書いてある枠)に質問を書きます。

3. [タテ84×ヨコ120]の枠に答えを書きます。

4. 暗記事項は参考書や問題集から抽出します。

1冊の体系的参考書を最初からやりながら、少しずつ暗記事項を抽出し、それを各ユニットに記入していくというやり方があります。この方式だと、各ユニットは整然と体系的に配列されることになり、それを順次覚えていくことによって、参考書を最初から少しずつ暗記していくことになります。

もちろん、この方式でもよいのですが、私自身はこの方式は好みません。私のやり方は、体系的整合性には一切こだわらず、その日に勉強した中で暗記すべき事項があれば、それを片っ端から「質問—答え」に構成し、順不同で、各ユニットに記入していくというやり方です。

5. たとえば、日本史で説明しましょう。

今日は模擬試験の日だったので、日中は試験を受け、夕方帰宅してからは模試の解答、解説の検討をやって、教科書や参考書はやらなかったとします。

日本史の第1問は江戸時代の三大改革についての問題でした。そこで、問題、解答、解説を検討して、次のような「質問—答え」を構成します。

Q₁ 江戸時代の三大改革の名称、担当者、時代は？

A₁ 享保の改革—六代将軍吉宗—1716~45

寛政の改革—松平定信—1787~93

天保の改革—水野忠邦—1841~43

Q₂ 江戸時代の三大改革の農村対策は？

A₂ 享保の改革－年貢増徴

寛成の改革－帰農令

天保の改革－人返令

ところが第2問は飛鳥時代に関する問題でした。そこで、この問題の検討から次のような「質問－答え」を構成します。

Q₃ 飛鳥時代の重要な2つの元号と事件は？

A₃ 大化－孝徳天皇－大化の改新始まる

大宝－文武天皇－大宝律令の制定

そして、[Q₁－A₁] [Q₂－A₂] [Q₃－A₃] をこの順序で各ユニットに記入していきます。

このようにすると、日本史サブノートの各ユニットは、時代順に並ぶわけではなく、全く at random に（ただし、重要な暗記事項が）並ぶことになります。

これでよいのです。このようにすると、ともかく試験に出そうな大事な事項を片っ端から暗記していくことになり、実戦力が早くつくのです。

人間の頭は、雑多な知識をつめこんでも、自然にそれを体系化しようとする働きがあるので、このやり方でも、きちんと暗記すれば、大雑把な体系はできるのです。

そして、試験の1ヵ月半前くらいになって日本史サブノートのユニットがたとえば600ユニットを超えるくらいになり、かなり力がついてきたら、最後に、教科書、参考書を総覧して、もれている知識を補充したり、体系をより精密に構築する作業を行えば完璧に仕上がります。

もちろん、参考書を1日勉強した日は、1つの時代について集中的にユニットが続くことになりますが、それは、それでよいのです。

要するに、体系や順序にこだわらず、勉強した事項をどんどんユニット化していけばよいということです。

6. [質問－答え] は、なるべく簡潔に、口で唱えて覚えやすいように構成します。そして、1つのユニットにあまりたくさんの情報をつめこまないようにするのがコツです。

7. 今度は、生物で「質問-答え」の構成見本を作ってみましょう。

Q₁ 内胚葉からできる器官は？

A₁ 消化管、消化腺

呼吸器（肺、えら、気管、うき袋）

内分泌腺の一部（甲状腺）

Q₂ 目の遠近調節は？

A₂ 近くを見るとき→毛様筋収縮→レンズ厚

遠くを見るとき→毛様筋弛緩→レンズ薄

Q₃ 補足遺伝子、条件遺伝子、同義遺伝子、抑圧遺伝子の分離比は？

A₃ 補足遺伝子 9:3:3:1（ニワトリのトサカ）

条件遺伝子 9:7（スイートピーの花の色）9:3:4（ウサギの毛色）

同義遺伝子 15:1（ナズナのさや、イネののぎ、オオバコの葉）

抑圧遺伝子 13:3（カイコのまゆの色）

8. 質問を書く欄のユニット番号の横か下に超重要ユニットマーク（超重要ユニットの印、たとえば赤のマーカで印をつける）や性悪ユニットマーク（何度やっても覚えられないユニットの印、たとえば黄色のマーカで印をつける）をつけて、そのマークのユニットだけを集中的に練習する工夫もすると、一段とよく暗記できます。

9. 以上の説明を基本に、自分でもいろいろ工夫して、葉袋式暗記法を活用してください。